

田植え時期です。代掻きは丁寧にそして作業は計画的に進めましょう。

田植えは温暖な日を選び5月下旬頃には、終えるようにしましょう。

水管理は、活着促進を図るため日中止水(とめみず)・夜間かんがいの基本を守りましょう。

田植えまでの管理

田植え5～7日前から極端な低温や霜が降りるとき以外は、日中・夜間問わず全面開放し、外気に慣らしましょう。
ハウスやトンネルを閉め切っていると苗の徒長につながるほか、過湿による苗立枯病発生の要因になります。

病害虫防除

■イネドロオイムシ・イネミズゾウムシ・いもち病対策

例年イネドロオイムシ・イネミズゾウムシの発生が心配される場合は、箱施用殺虫剤を使用しましょう。
補植用苗を放置したままにするといもち病の発生源となるので、補植が終わったら直ちに処分しましょう。

薬剤名	使用量 (1箱当り)	使用時期	イネドロ オイムシ	イネミズ ゾウムシ	いもち病
ブイゲットバイソン(粒)	50g	移植時	○	○	○
パダン(粒)	80g	移植時	○	○	—

※今年から青天の霹靂にパダン(粒)が使用できます。



田植え～活着期の管理 老化苗の移植は根張りが悪く、後に胴割粒発生を助長します

①苗の葉齢3.5葉を目安に、生育状況を見て適期に田植えを行いましょ。

※中苗で4.0葉期以上の老化苗は活着が進まず、生育量・収量に影響を及ぼすので、
田植えが遅くならないように気をつけて下さい。

②田植えは天気の良い日を選んで行って下さい。植付けの深さは3cm程度にしましょう。
深植えすると活着や分けつの発生が抑制されます。

③田植え後は生育を促進するため、できるだけ水温の上昇を図りましょう。
高温の日は2～3cm程度の浅水にし、低温の日は苗がかん水しない深さ4～5cm程度の
深水で保温しましょう。



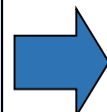
除草剤散布 除草剤の効果を高めるには、代かきが重要です。代かきは丁寧に・均平に行いましょう

除草剤をうまく効かせるポイント

- 土の表面が水面から出ていると、処理層が作られず、十分な効果が得られません。代かきを丁寧にを行い、田面を均平にならしましょう。
- 雑草は代かきしてから約10日間で発生してきます。登録内容の使用時期で早めに散布しましょう。
- 毎年、残草が多い水田では初期・中期剤の体系処理をお勧めします。
- 除草剤散布後は、やや深めの水位5cm以上を最低3日間は保ち、散布後7日間は落水やかけ流しは行わないようにしましょう。
- 水持ちの悪い水田では粒剤を選択しましょう。

初・中期剤処理体系(前年に雑草が多かった圃場)

初期剤	薬剤名	使用量	使用時期
初期剤	エリジャン乳剤	300cc/10a	植代後～田植7日前 または田植直後～5日後 まで
	ソルネット粒剤	1kg/10a	(ノビエ1.0葉期まで)
	ショキニー 250グラム	250g/10a	田植直後～田植後5日まで (ノビエ1.0葉期まで)



中期剤	薬剤名	使用量	使用時期
中期剤	セトト ヲヨツトSジ ヲソホ MX	500g/10a	田植後14日～ (ノビエ3.5葉期まで)
	レプラス1キロ粒剤	1kg/10a	田植後14日～ (ノビエ4.0葉期まで)
	マメットSM粒剤	3kg/10a	田植後10日～ (ノビエ3.5葉期まで)

一発処理体系

4成分	トップガンGT1 [®] 粒剤	1kg/10a	田植直後～30日
	シリウスエグザ粒剤		
	トップガンフロアブル	500cc/10a	田植直後～30日
	シリウスエグザフロアブル		
	トップガンジャンボ	250g/10a	田植後3日～30日
	シリウスエグザジャンボ	300g/10a	田植直後～30日

3成分	ウィナー粒剤	1kg/10a	田植直後～30日
	ウィナーフロアブル	500cc/10a	
	ウィナージャンボ	500g/10a	
3成分	ゼータタイガー1 [®] 粒剤	1kg/10a	田植直後～30日
	ゼータタイガーフロアブル	500cc/10a	田植後3日～30日
	ゼータタイガージャンボ	300g/10a	田植後3日～30日

※青天の霹靂はゼータタイガーのみ使用可能です。